



言語学

情報科学

大学教員

「ことば」の研究を通じて文系から理系へ

川添 愛 (津田塾大学女性研究者支援センター 特任准教授/
国立情報学研究所 社会共有知研究センター 研究員)

進路決定のきっかけ

私はもともと文系です。人間の言葉と心の関係に興味があったので、大学院では言語学を専攻しました。理系に飛び込むきっかけとなったのは、博士課程の途中で結婚して上京し、ある情報科学の先生のアシスタントを始めたことです。その先生は自然言語処理という、言語をコンピュータで扱う研究の専門家でした。最初は慣れない理系分野の研究に戸惑いましたが、徐々にソフトウェアの設計や、言語データや知識表現の研究を任されるようになり、6年間研究員として経験を積みました。今でも情報科学と言語学の両方を研究しています。

仕事と家庭のバランスについて

職場でも家庭でも「仕事」があり、また様々な不測の事態にも備える必要があるので、手間と時間をかけずにどうやって自分の体力維持と家族の健康管理をするかを常に考えています。食事はマクロビオティックや四群点数法などの食事法を取り入れながら作り、また週に二回はプールに通って泳ぐようにしています。仕事をしながら家事をするのは大変ですが、よく考えると「家族のため」と思っていることが結局「自分のため」になっているので、家庭の仕事も一種の投資なのだと思います。

研究の面白いところ

言語はありとあらゆるところに関わるので、多くの分野と接点があるところが面白いと思います。私はいろいろな事情で純粋に言語学だけに専念することはできませんでしたが、言語を軸にしていたお陰で、慣れない仕事でも「自分の得意な方向に引き寄せて」取り組むことができたと思います。特に、言語処理技術の開発を通じて生物学や疫学などにも関わられたのは良い経験になりました。他分野の知見との組み合わせで研究の可能性が広がるのは、「言語」のような普遍性の高いテーマの醍醐味だと思います。

進路選択についてのメッセージ

どういった進路に進むにしても、苦手分野や、一見関係ないことを切り捨ててしまわないことが重要だと思います。私は長い間「自分にできそうなことだけやろう」と思っていたのですが、それはいつしか「自分は何もできないのではないか」という閉塞感に変わっていました。やむを得ず嫌々ながら、理系科目を含む苦手分野をかじり始めましたが、その頃から少し目の前が明るくなり、後に情報科学の仕事をする時にも役立つと思います。特に論理学や情報技術、語学は多くの分野で要求されるので、勉強しておけば強力な土台になると思います。

海外留学・勤務を通じて得たこと・得したこと

留学期間は1年間と決して長い期間ではありませんでしたが、その後英語関連の仕事をする上では大きくプラスに働いたと思います。留学後、外国人の先生の元で研究員をしたり、翻訳の仕事をしたり、大学で英語を教えたりしましたが、留学の経験がなければ(また、留学していたことを履歴書に書けなければ)仕事をもらうこと自体難しかったのではないかと思います。研究面では、先生や大学院生の先輩のお宅などで頻りに集まって、長時間ディスカッションを重ねた経験が大変貴重でした。

海外留学・勤務を決めたきっかけについて

修士課程の時、ご指導いただいていた先生に、Visiting Scholar (客員研究員) という身分での留学を勧めていただいたのがきっかけです。ちょうどそのころ、その先生がアメリカのロサンゼルスにある南カリフォルニア大学の先生と共同研究をされていて、「1年ぐらい勉強しに行ってみたら?」とお話をいただきました。それまで日本どころか九州からほとんど出たことがなかったため随分迷いましたが、研究者をしていた父が「行っておいの方がいい」と賛成してくれたので決心がつけました。

海外の女性研究者の活躍と位置づけについて感じたこと

もともと日本でも女性が多く活躍されている分野での留学でしたので、「位置づけ」の面でとりたてて違いを感じることはありませんでした。むしろ驚いたのは、教授陣や大学院生に実に様々な国籍の方がいらっしゃったことでしょうか(ロサンゼルスという土地柄のせいもあったのかもしれませんが)。また、大学院生の年齢層も日本に比べてばらつきが多く、女性に関しても様々な年齢の方が熱心に勉強をされていたことが印象に残っています。

滞在先の思い出・生活者としての体験

留学先の大学院に日本から留学されている先輩方が数名いらっしゃり、非常にお世話になりました。車を買うまでの間、大学まで乗せていただいたり、買い物や遊びに連れていただいたり、運転練習や免許試験(落ちまくったので、何度も)に付き添っていただいたり……。まだ精神的に子供で礼儀など全く分かっていませんでしたので、色々ご迷惑もおかけしたと思います。車を買ってからは、大学の帰りに当てもなく寄り道してみたり、休日に海岸沿いの道をドライブしたり、カリフォルニアを満喫しました。

<川添 愛(かわぞえあい) プロフィール>

長崎県立長崎北陽台高等学校から九州大学文学部へ進学。九州大学大学院、University of Southern California、京都大学大学院にて理論言語学を専攻。2002年に結婚、国立情報学研究所のリサーチ・アシスタントを経て、翌年よりポスドク研究員として、生物学・疫学分野の情報抽出に利用する自然言語処理技術の開発や、オントロジーの構築に従事。2005年に九州大学より博士(文学)取得。2008年10月より津田塾大学女性研究者支援センター特任准教授、2011年4月より国立情報学研究所 社会共有知研究センター 研究員を兼任。